

# 石根地区 タウンミーティング開催報告

<p>【日 時】令和6年10月9日（水）19：00～20：30</p> <p>【場 所】石根公民館</p> <p>【参加者】地域：10人（石根地区連合自治会長など）、傍聴：1人 市：4人（市長、危機管理監、市民生活部長、石根公民館長）</p> <p>【テーマ】通学路等の環境整備について</p>	
<b>概 要</b>	
<b>参加者の発言要旨</b>	<b>市の発言要旨（及び対応）</b>
<b>道路照明について</b>	
<p>主な通学路に設置されている道路照明を調査し、マップを作成した。設置が集中している所もあれば、設置間隔が長く空いている所があった。石根地区では国道11号に並行した市道が通学路になっているが、道路照明のない所があるため、クラブ活動や塾からの帰りなど夜間の通行時が危険であると保護者も不安を感じている。</p>	<p>市が管理する道路照明が多いが、旧行政区時代の名残であると認識している。 通学路は、多くの道が放射状に広がっているので、これら全てに対応することは難しい。何ができて、何ができないかを整理しなければならない。</p> <p>文科省の「登下校防犯プラン」では、防犯対策に関して地域における連携強化が不可欠であると示している。警察・学校・自治体のほか、自治会・PTAの方々と協力して危険な場所を調査し、見守りを強化していく必要があるのではないかと感じた。 その上で、照明の設置を検討する必要があるのかを判断しなければならないかもしれない。</p>
<p>地元で防犯灯を設置できればよいが、自治会加入世帯も減少傾向にあり、自治会の予算で賄うことが難しくなっている。 市と自治会が話し合いながら、良い方法を探っていきたい。</p>	<p>道路照明には、行政（道路管理者）が設置・管理する街路灯と自治会に管理していただく防犯灯がある。 防犯灯の維持管理に関して、令和元年度から4年度まで予算措置を講じ、重点的にLED化を促進した。 電気料金については、令和5年度より3割補助から1灯500円の定額補助に変更したことで、少額だが以前より多く補助しているため、今後設置する際には、地域の負担でお願いしたい。 また、西条地区防犯協会では「防犯灯設置補助金制度」において、1灯あたり上限1万円の補助を行っているので、ご活用いただきたい。</p>
<p>必要以上に明るくする必要はないと思うが、明らかに道路照明が少ない所には設置してほしい。 また、太陽光を利用した簡易な照明をガードレールやガードパイプに設置してはどうか。劣化した電池の交換だけで済むのではないか。 柔軟な発想を活かした施策を望む。</p>	<p>大きなアイデアをいただいた。少し視点を変えると、できることも増えるのかもしれない。 例えば、防犯灯について間引きしたらどうなるか、移設したらどうなるか等を地域の皆さんと一緒に確認しながら、あるべき姿を求めていくことが大切だと思う。 防犯面で、明るさの度合の調整なども含めて検討の余地は十分にあると思う。</p>
<p>道路照明の設置に関して、企業の協力を得ることはできないだろうか。</p>	<p>地域の課題解決のために企業と連携することは非常に有益だと感じる。 市内においても、立地企業と合同で防災訓練を実施している地域もある。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
その他	
鳥獣対策について	
<p>サルやイノシシがよく出没する。 山から降りてきて国道11号を渡り、石根小学校や公民館近くの通学路でも目撃されており、高齢者も怖くて散歩できないという声が上がっている。</p>	<p>鳥獣被害対策として「攻め・守り・地域体制づくり」に取り組み、個体数を減らすための捕獲、電気柵や防護柵を設置して農作物を守り、地域全体で対策を講じることができるような体制を整えることが重要である。 鳥獣対策の専門家から指導を受けることが可能なので、ぜひ林業振興課に連絡いただきたい。</p>
<p>街中に出てくるのは、生息エリアに餌がないなど何かしら原因があると思うので、調査してほしい。</p>	
<p>先ほど説明のあった対策は、山間部における有害鳥獣対策という感じを受ける。猟友会にお願いしても、生活圏内で鉄砲を打つことは難しいだろう。 小学校では、下校時に校長先生が車で通学路を見回り、安全確認してくれている。 先生達や見守り隊も注意を払ってくれているが、子ども達を守る団体のようなものが必要になってくるのではと感じる。 このような現状にあることを行政に知っておいてほしい。</p>	<p>状況は承知した。鳥獣の専門家に相談して、どのような対策をしていくか検討させてほしい。 また、市では、青パト（青色回転灯を装着した車両による防犯活動）とは別に、地域セーフティパトロール隊を設置し、週に1～2回、2時間程度地域内を巡回している。 イノシシの出没が多い場所など危険な場所などを教えてもらえれば、集中的に巡視することも可能なので、情報をいただきたいと思う。</p>
<p>猟友会のメンバーも高齢化しており、担い手が不足している。 例えば、若者世代が狩猟免許を取得する際に、費用の一部を負担するなどの施策を検討してもらいたい。</p>	<p>狩猟免許の取得については、罾猟のことも含めて検討していく。</p>
<p>サルによる農作物の被害も多い。 自治会単位で申請すれば、（動物駆逐用）煙火を配布してもらえるが、個人で準備すると、多い時に5～6万円くらいの費用負担が発生するので、何か良い方法を検討していただきたい。</p>	<p>【補足】 狩猟免許の取得については、「狩猟免許試験予備講習会補助金」による支援を行っている。</p>
自治会の活動について	
<p>住民としては、西条市をいかに良くしていくか、活性化させていくかということが大切で、補助金や自治会費に頼ることなく、自治会でお金を儲ける方法も考えていこうと話合っている。 「西条市に住みたい、働きたい」と思えるまちをつくっていくためには、自治会と行政が一緒になって意見交換し、改善していくことが大切だと思う。</p>	<p>山間部や平野部、海側などで地域の課題が異なるのは当然だと思う。 そのような中、本市では、地域の特性に応じて主体的に取り組み、課題解決のために「地域自治」の実現を進めている。 「地域づくりは人づくり」と考えており、地域の課題をよくご存知の皆さんがアイデアを出し合いながら、解決に向けて動き出すことが大切だと考える。 一方で、自治会の加入率は減少傾向にある。主に自治会が管理する防犯灯やごみステーションなどに関しては、自治会の加入の有無に関わらず、協力金のような形で頂戴し、自治会の負担軽減を図ることも一考の余地があると思う。</p>